

# プロジェクト報告 Project Reports

## ハイチ共和国 『ハイチ地震被災者支援』 仮設学校建設事業

サポート: ジャパンプラットフォーム  
2010年10月~12月

2010年1月12日に発生したマグネチュード7.7の地震は死者20万人、負傷者31万人、行方不明者869人をだし、被災総額は77億ドル。地域では1770年以來の大震災であった。現在は、学校再建が急務となり、さらにコレラの蔓延を防止するためのメディカル支援が必要である。



人専門家2名で事業を進めています。

仮設学校建設支援事業は2010年12月30日までです。学校建設と平行し、学校内の設備品の配布、児童への学習キットの配布、衛生環境研修を行います。フチゴアーブのHDG小学校父兄や周辺住民は、瓦礫の撤去や植林、道路整備、花を植えるなどのボランティア活動で貢献してくれています。今後も、ICAは現地の人々と一緒に復興活動に参加したいと思っています。

国内でも、事業報告を定期的に行い、現地の様子を伝えられるよう努力しますので、皆様も是非ご参加下さい。

(担当: 黒柳姫紗美、エドウィン・チェゲ)



学校建設現場のフチゴアーブに入ったICAスタッフ

第1回目、第2回目の緊急食糧支援に続き、今回は第3回目の支援活動のレポートです。地震から10月経ったハイチですが、現地では露店などの小規模ビジネスは再開したりと復興の兆しは見せていますが、未だ瓦礫が散乱し、被災者がもとの生活を取り戻すには想像以上に時間がかかると言われています。

ICAは、現地のニーズ調査を行い、第3弾として、ハイチの教育施設の再建支援を行う事にしました。ハイチの教育施設は、職のない大人からの虐待、病気の蔓延、怪我や事故から児童を守り、安全な空間で教育を行う重要な施設です。国連なども学校再建には力を入れ急務となっています。ICAは会議を重ね、教育施設支援が行き届いていないフチゴアーブ地域のHDG小学校における仮設学校建設を実施することになりました。現在、ICAスタッフが2名、日本



学習キット配布の様子



現地の建設業者と打合せを行うICAチーム



建築に関する打合せの様子



被災者グループに対する事業説明会



学校の完成を心待ちにする児童たちとICAスタッフ



耐震性のある学校を建設する



現地の業者に指導する福島専門家



児童に学習教材を配布するICAスタッフ



子供たちの笑顔が見たいから・・・